

## 仮屋を元気にさせよう！

～玄海町真鯛祭りの成果～

仮屋漁業協同組合女性部

西 朝子

### 1. 地域の概要

私たちが暮らす仮屋は、佐賀県の北西部、東松浦郡玄海町の仮屋湾に面しており、昔から水産業が盛んである。

近くには、沈む夕日を眺めながら露天風呂を楽しめる天然温泉「海上温泉パレア」や、絶景が自慢の「玄海国定公園」もある。

また、560年あまりの歴史を持つ三島神社の例大祭では、厄年の男が神輿をかつぎ、地元の小学生が巫女に扮して「浦安の舞」を奉納する伝統行事が行われる。

#### 仮屋の町



### 2. 漁業の概要

私たちが所属する仮屋漁協は、組合員数29人、准組合員数45人の合計74人で構成されており、その多くが、一本釣りや定置網漁といった漁船漁業、魚類や貝類の養殖業を主として生計を立てている。

### 3. 女性部の組織と運営



仮屋を元気で明るい町にしようと日々取り組んでいる「お母さんたちの会」が仮屋婦人部である。全盛期は80人を超える部員であったが、近年は水産業の低迷や高齢化などが原因で、現在は24人にまで減り、そのうち漁業に携わる部員は4人となっている。

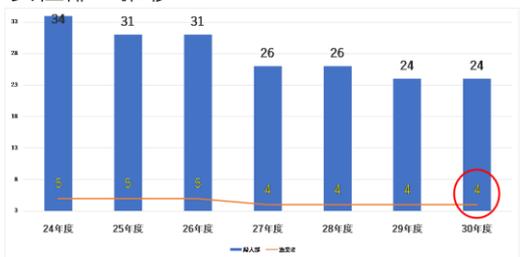
私たち仮屋婦人部では、毎月のアルミ缶整理、盆踊り大会でのイベント協力、交通安全キャンペーン、海難遺児を励ます募金活動、わかしお石けんの販売促進、産業祭での販売応援など、1年を通してさまざまな活動に取り組んでいる。

#### 4. 活動課題取組選定の動機

しかし、仮屋のメイン産業である水産業は経営が厳しく、町外に働きに行くといった形で人口が減り、近年は町全体に元気がなくなっているように感じる。

仮屋の人口は、平成24年4月は671人であったが、平成31年4月には578人となっており、約100人も減少している。組合員数は、正組合員と准組合員を合わせて平成24年度は131人であったが、令和元年度では73人となり、60人近く減少している。

女性部の推移



仮屋人口の推移



仮屋のふるさと納税返礼品は

なんと！！



仮屋の真鯛養殖は



- \* 昭和40年代から
- \* 九州で有数の生産地
- \* 高品質

このような状況の中ではあるが、平成26年度のふるさと納税額で玄海町は全国2位となった。返礼品の代表的なものとして、魚の干物の詰め合わせ、佐賀牛、棚田米コシヒカリなどがある。中でも仮屋の返礼品は体長約40センチの1.5キロサイズの真鯛まるまる1匹であり、オープンに入りきらないほど大きい真鯛は大変好評で、全国からお礼の電話や手紙をたくさん頂いた。

仮屋の真鯛養殖は昭和40年代から行われており、歴史も長い。こんなに美味しい真鯛を途絶えさせてはいけないと思い、もっといろんな人に知ってもらえるようPR活動をすることにした。

そこで、仮屋漁協をはじめ、地域振興会、観光協会でも度々話し合い「玄海町真鯛祭り」を行うこととなった。

#### 5. 実践活動の状況及び成果

「玄海町真鯛祭り」は漁業者が主体となり平成28年3月に第1回目がスタートした。真鯛は桜が咲くころが一番美味しくなるということで、真鯛祭りは毎年3月に開催している。

場所は仮屋漁協の対岸にあたる三島神社の駐車場である。すぐ横には海上温泉

### 特大真鯛重量当てクイズ



17

### 真鯛の浜焼き



18

パレアがあるので、真鯛祭りを楽しんだあと、温泉でゆっくりすることもできる。

イベント内容は、大きな水槽に入った、漁師でも見たことのないような超特大の真鯛の重量を当てるクイズや、いかだに真鯛を放流し、子どもからお年寄りの方まで楽しく釣りを味わえる真鯛の一本釣り体験などを行っている。

そのほかに、朝に水揚げしたばかりの活きのいい真鯛を、漁師が手間ひまかけて、炭火で焼き上げる真鯛の浜焼きや、浜のお母さんが愛情込めてふっくら美味しく炊き上げた鯛めしの販売なども行っている。

また、購入したサザエや牡蠣などの新鮮な魚介類をその場で焼いて食べることのできるバーベキューコーナーも設置した。開放的な仮屋湾を背景に、新鮮な魚介類を口にすると、さらに美味しく感じることができる。

また、真鯛料理だけでなく、玄海町の皆様のご協力を得て、採れたて野菜や果物の特産品販売、海鮮カレーや押し寿司の販売なども行っている。

そして、まだ寒い季節なので、体の芯から温まる真鯛のつみれ汁を100人限定で無料でふるまった。つみれ汁は大好評であり、朝早くから行列ができる。

子どもたちが楽しめるようなイベントをしてほしいとの要望に応じて、前回よりタッチプールを用意した。玄海町でとれたウニやヒトデ、アワビやわかめなどの海の生き物をプールに入れ、直接触れるようにした。子どもだけでなく、大人も調理方法を質問するなど興味津々なようであった。

私たち女性部の役割は、真鯛の浜焼きと鯛めし販売のお手伝いである。どちらも大変人気で、焼きあがると行列ができ、すぐに完売してしまう。真鯛の浜焼き

### つみれ汁の振る舞い



22

### タッチプール



23

は、販売目標として250匹を準備していたが、すぐに足りなくなり、急遽養殖いかだに真鯛を取りに行くという嬉しいハプニングも起きた。

## 6. 波及効果

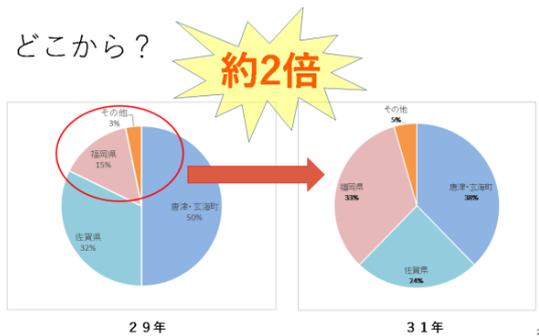
昨年で4回目の「真鯛祭り」も大盛況で終えることができた。毎回祭りの成果を知るために、アンケート用紙を準備し記入してもらっている。

昨年の真鯛祭りは600人近くの方が来場した。今までのアンケート回答数は、平成28年が3日間の実施で304枚、平成29年が2日間の実施で282枚、平成30年も2日間の実施で343枚だった。昨年は1日しか実施できなかったが、225枚の回答をいただいた。

アンケート回答数



どこから？



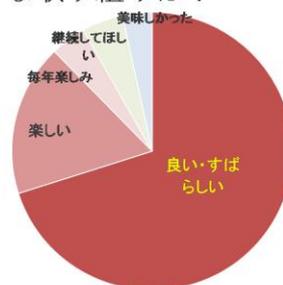
また、平成30年までは玄海町のウォークラリー大会にあわせて実施していたが、混雑するという意見があり、平成31年からは単独で開催している。このような経緯がありながらも、参加者は年々増えている。

参加者がどこから来場しているかを調べたところ、平成29年は唐津市内・玄海町が50%、その他佐賀県内が32%、福岡県及び他県からは18%だったが、平成31年は唐津市内・玄海町が38%、その他佐賀県内が24%、福岡県及び他県からは38%となっており、約2年間で他県からの来場客は2倍以上に増えている。これは、ラジオや新聞、旅行雑誌などでのPR活動や、インターネットなどでイベントの周知に成功したためと思われる。また、隣県の福岡県ではいろんな方をお願いをしてポスターの貼り付けを行った。

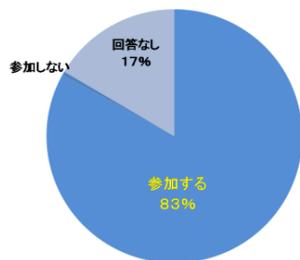
アンケートにおける「このような取組はどうですか？」という質問には183件の回答をいただき、多くの方から「大変良かったので継続してほしい」「美味しかった！」と高評価をいただいている。

他にも、改善してほしいこ

このような取り組みは？



今後も参加されますか？



とや後継者不足に対してなどたくさん意見をいただいた。これらの大切な意見を参考に、改善していきたいと思う。

最後に「今後も参加されますか？」という質問に対しては83%の方から「参加する」という回答をいただいている。

アンケートの余白には「漁師さんになりたいのですが、どうしたらいいですか？」といった小学生の可愛らしいコメントも見受けられた。

このように「玄海町真鯛祭り」を実施することで、真鯛の美味しさだけでなく、漁師の仕事の魅力、仮屋の良さをアピールできたと感じている。

#### 7. 今後の課題や計画と問題点

地元の学校では、充実したキャリア教育の一環として、地元の名産品を活用した商品開発のプロジェクトを遂行している。新商品の「たべTAI」は、いとより鯛を香ばしく焼き上げたものである。このプロジェクトは第2弾も始動しており、玄海町の名産品をたくさんの方に味わっていただくため、大人だけでなく地元の子どもたちも頑張っている。



仮屋には、真鯛だけでなくトラフグやマガキ、ひじきなどまだまだ美味しい自慢の海産物がある。これからは真鯛祭りの経験を活かし、さらなるPR活動を積極的に行っていきたいと思う。仮屋の海産物が有名になり、消費者の方に「これ、仮屋の魚やん！」と手に取ってもらえるようになれば、仮屋に人が増え、後継者も集まり、さらに活気あふれる仮屋となるのではないかと感じている。

他にも美味しい海産物がある

